

○平成29年度委員

森田 彰朗、榎本 浩二、井野 良彦、角野 勝久、上村 正広、若生 謙二

○出席者

協議会委員：森田 彰朗、榎本 浩二、井野 良彦、角野 勝久、若生 謙二

学 校：校長 真鍋 政明、教頭 浦 展諭、事務長 高木 みぎわ

吾妻 由隆、上武 茂昭、樹 博史、宮坂 公美、葉山 佳秀、土肥 正毅

○内容

学校長挨拶 100周年記念式典について協力ありがとうございました。
説明会等にも今年度多くの中学生が来ている。

1. 協議（司会：委員長）

(1) 平成29年度学校評価および平成30年度学校経営計画について

校長より報告

委員：RPDCAのRとは何か

校長：Rはリサーチである。

委員：学びの基礎診断について、子ども達の点数を上げる事になるので辛いと思う。

校長：テストのレベルは選べる。行く行くは点数で入社試験等に使われる可能もある。

委員：高校から大学へ進学時に自己アピールやプレゼンテーションなどを入試のシステムに組み入れてくるシステムになると思う。

校長：記述式や外部テストの導入などに加えて大学独自の試験がある。今後、大学へ入学する生徒の多様な力をつける。大学に入学した生徒の学力アップの2つが必要であると思う。

委員：子どもの学ぶ力を上げる方向に向かっていると思う。

今まで100周年、全国大会の取り組みから6次産業化、地域連携、防災等、目標が大きい。1歩でも進むように美原区として応援していきたい。

委員：農芸高校は農業に特化しているが、多くのメディアでクローズアップして頂いている。やっていることを知ってもらうこと、評価してもらうことは大変良い。今後も外部の活動を広げて行って欲しい。また、地域との協力（美原食堂）なども願います。

委員：全国的にもメディアに取り上げられており、活動が紹介され評価に繋がっている。新聞やテレビなども評価に入れてはどうか。

委員：メディアに取り上げられていることは農芸高校の魅力のアップや生徒の意欲向上につながると思う。

委員：SNSの発信などで広報がうまくリンクして繋がる事もあると思われる。

(2) 平成29年度 学校教育自己診断結果について

教頭より授業アンケートの結果について説明

委員：教育相談について数値が低いのはPR不足か？

校長：組織として取り組んでおり、成果は上がってきている。

学校：教育相談について、活用している生徒は知っているが、活用していない生徒は知らない

と思われる。

委員：普通科と比べると良い意味で農芸高校の生徒との実状は違うと思う。

(3) 平成 29 年度 授業アンケート結果について

教頭より結果について報告

委員：2 年生の数値が全体的に低い。

教頭：現 2 年生の 1 年生からの数値が全体的に低い傾向がある。

委員：農芸高校の子どもは地歴が高い数値を示しており地歴が好きな子が多いのか。

教頭：地歴の先生方が熱心で ICT など積極的に取り入れた授業をしている事もある。

(4) 平成 29 年度における学校の取組状況と次年度に向けて

各分掌長より取組みについて報告

委員：保健部で美原の保健センターとの連携はしているか？

学校：農芸祭でも利用している。

委員：医師もいるので是非利用して欲しい。

学校：食育スクールの指定を受けている時にお世話になった。授業でも活用している。

学校：船戸池の埋め立ては何ができるのか。

委員：防災センターができる。勉強になるので利用して欲しい。

委員：小中高連携で自尊感情が高まるので、連携を進めて欲しい。

学校：小中などと連携し、食育について多くの学校と連携をしている。

委員：授業アンケートの結果など新 3 年生の今後の変化を注目していきたい。

(5) スーパープロフェッショナルハイスクール(SPH)について

校長より次年度指定に向け申請中であることを説明

委員：採択はいつか

校長：3 月末から 4 月に結果がわかる。昨年は 10 校申請 2 校採択であった。

(6) その他

・学校運営協議会について

校長より説明（次年度より学校協議会より変更）

質問等なし

・生徒心得について

校長より説明

委員：本校では実習をすることが多い事から金属製のものを付けることは注意している。

委員：小学校では感性を広くするため、中学校・高校に進むにつれ社会に出るための指導は入れている。